

【県人会】北から南から 徳島県人会



会員約20人で活動している徳島県人会。約半数を県出身者が占める。他に北海道や秋田、千葉などの出身者もいる。

最大のイベントは毎年8月、徳島市の阿波踊りへの参加。卒業生や他県人会の学生にも参加を呼びかけ、現役生が企画・運営を行う。「ほとんど面識のない人ばかりなのに、踊りが始まると気持ちがひとつになり、終わった時には、自然と笑顔になる。そんな面白さが魅力です」と前会長の梅林直人くん(文3・徳島市立高)。

今年は12日から15日までの期間中の3日間(14日は市内観光)、約40人が参加した。初めての学生も多く、毎日3時間、OBや上級生の指導で練習、午後6時からの本番に臨む。市内の道路が会場となり、道路脇に観客席が設けられる。大きな舞台が何カ所もあり、今年はそのうちの3カ所で踊ることができた。

また、阿波踊りで大切なのが鳴り物と掛け声。鳴り物は鐘、中太鼓、大太鼓、笛で構成され、OBや徳島県人会の2、3年次生が担当する。鐘を担当した横山景子さん(文3・徳島県城北高)は「小学校のころ、運動会などで踊ったことはありましたが、大学で初めて本格的に挑戦しました。大勢の観客の前で演奏するのは楽しいですし、うまく踊りが揃うと大きな拍手がわき、充実感があります」と話した。他県人会の学生から「来年も参加したい」との感想が寄せられた。

阿波踊りが終わり、現在は石原康裕新会長(経済2・徳島文理高)を中心に鳳祭に向けての準備を行っている。「ちろりん村」の屋台では「すだちジュース」(すだちをサイダーで割った飲み物)が恒例。一度、試してみたいはいかがだろうか。

[9月15日/ニュース専修10面]

【健康フラッシュ】 ちょっと変わった大学生のお役立ち本 2冊

少し前、学生相談に関する本が相次いで出版されました。『大学生がカウンセリングをもとめるとき』＝ミネルヴァ書房、『学生のための心理相談』＝培風館、です。学生を一番の読者に想定し、大学生のライフサイクルや身近な出来事を捕らえて、読みやすい内容です。ここでは『大学生が…』の8章、カナの回想をちょっとご紹介します。

平カナは、入学直後の不安な時、オリエンテーションで偶然言葉を交わした人たちとグループが出来、履修登録もサークル見学も行動を共にし、いつも一緒に学内を歩くようになります。まずは居場所が出来てホッとしたものの、差し障りのない話の中で敏感に他の人と自分を比較し、弱みになるようなことを口にするのをためらううち、グループで本音が言えない状況になってきます。初めての試験を前に、自分ばかりがノートを貸しているようで釈然としないながらも断れず…一緒にいることに何となく疲れを感じつつ、独りぼっちになるのも怖い。そのうちゼミの選択で皆がばらばらの専攻をし、疎遠に。外の力で新たなグループが出来…。

と、こんな風に誰もが多かれ少なかれ体験していることに触れ、一段、視点を上げて何が起こっていたかを捕らえることが出来るようになっていきます。この章の著者、中川純子さんは「読み手の視線が動くように」「見えるように書く」工夫をしたと話されていました。同様に全編が分かりやすく構成されています。2冊とも神田・生田相談室に揃っています。お気軽にお立ち寄りください。(学生相談室)

〔9月15日/ニュース専修10面〕

【学部発信】経済学部

今月から学部の新たな取りくみや進んでいく方向を紹介していきます。第1回は経済学部です。

■経済学科－導入教育「入門ゼミナール」を設定



経済学科では、経済学部を取り巻きさまざまな時代状況に応えるために、02年4月入学生から新しいカリキュラムを導入しました。

第一に1年次の段階での大学生活への導入教育を重視し、経済学を体系的に学べるようにしたことです。第二は、2年次から

4コース(「歴史と発展」「福祉と環境」「企業と情報」「市場と政府」)に分かれることで、個々の学生の問題関心と学習目標を関連させて学習計画を立てられるようにしたことです。

この導入教育のうちでも最大の目玉は、少人数のクラスから成る「入門ゼミナール」(1年次必修・前期2単位)を設定して、大学生生活入門ならびに大学生としての知的マナーの習得を、図書館利用やコンピュータの活用などで具体的に体感できるようにしたことです。進め方としては、グループ発表と個人レポートの提出を組み合わせ、個々の学生の問題意識を引き出す工夫をしています。この「入門ゼミナール」のもうひとつの特徴は、出席が前提となっていることです。日本の多くの大学での例にもれず、わが経済学部でも、これまでは学生の出席率は必ずしもよくありませんでした。こうした悪しき風潮を打破するために、当たり前ながら、授業への出席を当然とする学内コンセンサスを確立したかったのです。その結果、まだ新カリキュラム導入直後ですが、出席率はきわめて高く、学生の意欲的な取り組みが全体的に高まってきています。これからは期待できます。(原田 博夫)＝写真は同ゼミ

■国際経済学科－「留学・海外研修」海外インターンシップ研修も検討

国際経済学科は96年度に設置され、一昨年に初めて卒業生を送り出した若い学科ではありますが、学科のカリキュラムで学ぶと同時に、協定校との交換留学や国際交流センターの春期・夏期の語学研修などへ参加する多くの学生を輩出しています。当学科では留学・海外研修をいっそう促進するため、新しい科目やプログラムを作る検討を開始し、導入に向けた準備をしています。

具体的には、①1年次前期科目の「国際経済入門ゼミナール」の一部に英語を用いたクラスを設置する ②同じく既設の「国際コミュニケーション」の一部にTOEFLの得点を留学が可能な水準へ引き上げることを目標にしたクラスを導入する ③春期・夏期の語学研修への参加を促進する ーなどを柱にしたカリキュラムの改革です。このコースを1年次から2年次で履修した学生は、その後、協定校への交換留学(長期留学)や来年度から発足するオレゴン大学への半年留学を奨励されたり、新設を検討している「海外インターンシップ研修」やNGO(非政府組織)と提携した「海外ボランティア研修」への参加に挑戦できるようになります。

こうした「留学・海外研修プログラム」を04年度入学生から活用できるようにするため、準備が進められています。(浅見 和彦)

[9月15日/ニュース専修10面]